

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 栃木市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
※事業計画書「3. 研究主題」と同じ
3. 研究タイトル : 小規模校を活性化させるための教育活動の高度化
～小規模校のメリットを生かしデメリットを解消するための研究～
※事業計画書「4. 研究タイトル」と同じ
4. 研究課題 : (1) 小規模校のメリットを最大化させる方策
ア. 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
(研究課題)
①きめ細かな指導による学力の向上
②低学年からの英語教育によるコミュニケーション能力の育成
③各種検定制度を活用した学習意欲の向上
④ICT機器活用及びプレゼンテーション能力の向上
イ. その他、創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のメリットを最大化させる先進的な方策
(研究課題)
①プロの朗読家等の活用による自己表現パフォーマンスの向上
(2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策
ア. 学校間ネットワークの構築
(研究課題)
①ICT活用等による多様なコミュニケーションの確保
イ. 社会教育と密接に連携した学校教育活動
(研究課題)
①「とちぎ未来アシストネット」事業と連携した多様なコミュニケーションの確保
ウ. 児童生徒の増加や児童生徒集団の多様性確保
(研究課題)
①小規模特認校制度を活用した児童数の増加
エ. その他、創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のデメリットを最小化し、メリットを最大化させる先進的な取組
(研究課題)
①学校の「コミュニティ・スクール」化を図り、地域連携のプロジェクトを行う。

※事業計画書「5. 研究課題」と同じ
※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

・「少人数」を生かしたきめ細かい指導の有益性を認識しながら、その実践を図るとともに、小規模校において課題とされる「コミュニケーション能力の向上」を目指すための機会の充実について、外部講師の活用やICT教育の推進等の方策を進めていく。
・コミュニティ・スクール化により設置された学校運営協議会を学校と地域を繋ぐ核として、地域の教育力を生かした特色ある教育を小規模校において推進する。

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。

(2) 調査研究の実施状況 (平成29年度)

4月	
5月	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の学びタイム・放課後教室開始 (年間通して) ○「とちぎ未来アシストネット」を活用しての地域住民による学校支援ボランティア活動 (年間を通して) ○各学校の学校運営協議会の開催 ○各学校における外部講師による「魅力ある授業」の実施 (各学校)
7月	○演劇鑑賞会開催 (国府南小)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクール理解のためのフォーラムへの参加 (岐阜市) ○小規模特認校保護者説明会の開催通知配布 (市内各戸)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○小規模特認校保護者説明会開催 ○「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進会議」開催
10月	
11月	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクール理解のためのフォーラムへの参加 (東京) ○朗読ライブ開催 (大宮南小)
1月	○演劇鑑賞会開催 (真名子小)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちのコミュニケーション能力を高める授業 (国府南小) ○落語発表会 (小野寺北小)
3月	

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項 (会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など) については、必ず記載すること。

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>研究課題「小規模校のメリットを最大化させる方策」については、研究1年次に続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな指導による学力の向上 ・英語教育によるコミュニケーション能力の育成 ・検定制度を活用した学習意欲の向上 ・ICT機器活用及びプレゼンテーション能力の向上 <p>を目標に実践を進めた。</p> <p>研究校4校では、授業において個に応じた指導を更に進めることをはじめ、朝の学習時に全校児童を同一教室に集め、全教員で巡回指導をするなど工夫して学力向上に努めている。</p> <p>漢字検定については、研究校の一つである大宮南小学校の全児童67名中55名が受験しており、意欲の高まりがみられた。</p> <p>また、小規模校ではタブレット等のICT機器を個人で使用できる機会も多く、ソフトを活用したプレゼンテーション活動も充実でき、表現力の向上を図ることができた。</p> <p>各学校における学習の様子からうかがえることとして、少人数の学習集団だからこそ全員が積極的に活動している姿が印象的であった。(授業に参加していない児童がいない)</p>
<p>研究課題「小規模校のデメリットを最小化させる方策」については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とちぎ未来アシストネット」を活用した地域による学習支援の充実 ・コミュニティ・スクールを活用した地域ぐるみの教育の充実 ・外部講師等による「魅力ある授業」を通じた、コミュニケーション力の向上 <p>を目標に実践を進めた。</p> <p>平成29年度の「とちぎ未来アシストネット」を活用した各研究校での学校支援ボランティアの1年間の活動延べ人数は、大宮南小：936人 国府南小：809人 真名子小：2,793人 小野寺北小：306人となっており、多くの地域住民が子どもたちの学習を支えている。(栃木市の公立全小中学校44校 1年間の活動延べ人数：441, 577人)</p> <p>また、今年度より市内公立全小中学校に導入したコミュニティ・スクールの活用としては、研究校4校の各学校運営協議会が、それぞれの小規模特認校推進委員会及び本事業推進組織を兼ねており、「小規模校における教育の充実と児童数の減少」を学校と地域が共有する課題と捉え、その解決に向けた協議を行っている。協議からの実践として、国府南小では、学校運営協議会委員と地域に住む卒業生が中心となって子どもたちのコミュニケーション能力を高めるための授業を外部講師を招聘して行い、今後も定期的実践していく予定となっている。</p> <p>外部講師等による「魅力ある授業」については、昨年度実施して効果的と考えられた大宮南小の朗読指導を今年度も引き続き行い、子どもの表現力の向上が見られた。研究2年次である今年度については、この外部講師等による「魅力ある授業」を全ての研究校において実践した。各学校における授業内容としては、大宮南小：「朗読指導」 国府南小：「観劇及び演劇指導」 真名子小：「観劇及び演劇指導」 小野寺北小：「落語指導」である。それぞれの取組の成果として、子どもたちが「話す」ことに対し、日常的により積極性を持つようになったと報告されている。また、小野寺北小の「落語指導」では、児童による「落語発表会」に学校支援ボランティア、保護者、地域住民を招くことを企画して、子どもたちのコミュニケーション能力を高めることはもとより、学校と地域を繋ぐことを深める効果ももたらした。</p>

(2) 成果物等

<ul style="list-style-type: none"> ・小規模特認校保護者説明会のご案内 (チラシ) ・小規模特認校パンフレット (各研究校別) ・新聞記事 (外部講師による「魅力ある授業」関連)

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

※成果物 (冊子・パンフレット等の印刷物) については、10部添付すること。

※成果物 (冊子・パンフレット等の印刷物) の電子媒体がある場合は、併せて送付すること。

(3) 今後の取組予定

<p>研究3年次となる来年度については、この2年間の成果を捉えたうえで、より効果性のある取組を更に推進していく。具体的には、外部講師等による「魅力ある授業」の推進を特に進めていきながら、小規模校のよさを生かした児童一人一人を大切にしたいきめの細かい指導を日常的に行っていきたいと考える。</p> <p>また、それら取組内容の地域への発信についても着目しながら、少子化・人口減少における学校の課題を地域と共有することも更に進めていきたい。</p> <p>なお、3年間のまとめとしての報告書を作成し、今後小規模校化が進む状況の中、いかに教育の充実を図るかということへの一つの指針としていきたい。</p>

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。